

Title	京大東アジアセンターニュースレター 第639号
Author(s)	
Citation	京大東アジアセンターニュースレター (2016), 639
Issue Date	2016-10-03
URL	http://hdl.handle.net/2433/216907
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

2016 年 10 月 3 日発行 第 639 号

CONTENTS

「中国経済研究会」のお知らせ.....	2
アジア自動車シンポジウム 2016 のお知らせ.....	3
ウズベキスタン管見 大西広.....	4
中国人留学生、日本の「就職の神器」に注目 福喜多俊夫.....	9
【中国経済最新統計】.....	11



「中国経済研究会」のお知らせ

2016年度第5回（通算第59回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2016 年 10 月 18 日(火) 16：30－18：00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下1階

みずほホール AB

テーマ： 「人民元国際化のプロセスについて」

報告者： 蓋艶梅(北京行政学院副教授)

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。2016度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月19日（火）、5月17日（火）、6月21日（火）、7月19日(火)

後期：10月18日（火）、11月15日（火）、12月20（火）、1月17日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



アジア自動車シンポジウム 2016 のお知らせ

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学ものづくり経営研究センター

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター支援会

アジア自動車シンポジウム 2016

新興国における部品現地調達を考える

—部品国産化ライフサイクルを一つの視座として—

■京都会場 2016 年 11 月 5 日(土) 13 時

京都大学経済学部三番教室(法経東館 2 階)

■東京会場 2016 年 11 月 7 日(月) 13 時

京都大学東京オフィス(新丸の内ビルディング 10 階)

13:00-13:20 挨拶

東京大学ものづくり経営研究センター ディレクター 新宅 純二郎
東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点長 丸川 知雄

13:20-14:40

問題提起: 部品国産化ライフサイクル 京都大学 経済学研究科 教授 塩地 洋

14:40-15:10

サプライチェーンの複雑化と深層の現地化 東京大学 経済学研究科 教授 新宅 純二郎

15:30-16:00

日系サプライヤーの現地化基本戦略 立命館大学 経営管理研究科 准教授 佐伯 靖雄

16:00-16:30

現地 2 次サプライヤーの技術能力—深化を制約するか 桜美林大学 経営学研究科
教授 井上 隆一郎

16:30-16:50

総括コメント 東京大学 社会科学研究所 教授 丸川 知雄

16:50-17:00

閉会挨拶 京都大学 経済学研究科 准教授 田中 彰

17:10-18:30

懇親会 参加費 2000 円(支援会会員は無料)

参加の御申込は、塩地 shioji@econ.kyoto-u.ac.jp 宛に、①会場名、②氏名・所属、③懇親会出欠を御連絡ください。シンポジウムの参加費は無料、懇親会は 2000 円です。ただし支援会会員は懇親会も無料です。

東京会場は定員 90 名、京都会場 200 名です。お早めにお申し込みください。

なお東京会場は会場が小さいため、御申込は支援会会員のみとさせていただきます。

支援会入会につきましては塩地までお問い合わせください。

ウズベキスタン管見

慶應義塾大学教授、京都大学名誉教授

大西 広

9月19-24日の間、大阪能率協会の視察旅行に参加し、ウズベキスタンを初めて訪問することができた。現地対外経済貿易省や商工会議所、日本大使館、ジェトロ、JICAなどの訪問がセットされていて、大いに勉強になった。私の本来の関心は、中国の「一带一路」や AIIB の現状を知りたいというもので、その分野でも大きな収穫があった。現地は日本と違って当然に歓迎していること、しかし、その投資対象を狭義のインフラだけでなく、教育・医療などの「社会インフラ」にまで拡張して欲しいとの要望があることである。AIIB には更なる期待があることが分かった。

しかし、これらの「本丸」の関心に加えて、いくつか面白い事実も知った。以下、簡単に論じたい。

ウズベクは文明の十字路

実のところ、サマルカンドはチムール帝国のみの首都ではなかったのだが、現在のウズベク人のアイデンティティーはまるきりチムール帝国となっている。サマルカンドに残された大規模「遺跡」はほぼチムール時代のものであることがその理由であろうが、『地球の歩き方』レベルの歴史知識から言っても、このアイデンティティーは間違っている。『地球の歩き方』では、ウズベク人がこの地で台頭をしたのはチムール帝国の後半期以降、完全にはチムールを「シャイパニ朝」が滅ぼして以降であり、もっと言うと、この王朝を作ったのもチンギス・ハーンの長男ジュチの五男シャイパニとなっているからモンゴルの血を継いでいることとなる。しかし、もちろん、現在のウズベク語はウイグル語と殆ど同じで、いかなる意味でもチュルク(トルコ)系であるから「モンゴル系」と言うわけには行かない。

しかし、この地が「文明の十字路」と言われるべき地であることの一端はこのツアーで味わうことができた。タシケントの2日目に参ったレストランの「民族舞踊」が、チュルク系のもの、インド系のものに加え、ロシア系(レストランのテーブルの並べ方も「ロシア式」であった)のものもあったからである。私はウイグルを研究しているので「チュルク系」は識別できるし、インド舞踊はこの6月にインドでプロのそれを見せてもらったところである。しかし、そ

ここまで言うとも、この分野で「中国文化」が一切届いていないことがわかる。

ただ、舞踊や言語で届いてなくとも、訪問した「観光地」のひとつはまさしく「中国文化」なるものであった。それは、現代も残る伝統的な製紙工房であり、この製紙法はタラスの闘いで捕虜になった中国=唐軍の兵士がもたらしたものである。そして、それを確認するために、「タラス河畔の闘い」をウィキペディアで検索すると次の地図が出てきた。当時、世界が中国とイスラム帝国(私は高校の時「サラセン帝国」と習った)に二分されていたことを改めて知るとともに、その国境がここだったことを知る。詳しく見ると、現在のタラスはキルギスタン北西部に位置するので、唐は当時、キルギスの首都ビシュケクやカザフの以前の首都アルマトイも版図に組み込んでいたこととなる。ものすごい。そして、この中で、紙という中国文化が西方に伝えられたのである。

なお、こうしてみると、中国文明の三大発明たる紙、火薬、羅針盤はすべて理系的な発明であることに気づく、中国の東方にある日本は中国から漢字や儒教など多くの「文系的」なものを輸入してきたが、西方諸国はそれらを受け容れず、ただ理系的なもののみを受け容れた。面白い。



ウズベク人はモンゴルが嫌い

しかし、問題は、ウズベク人のアイデンティティーとしてのチムールをウズベク人は「ウズベク人」とするものの、彼は歴史学的には「モンゴル系」となっていることである。私は、もちろん、この専門家ではないが、先の『地球の歩き方』でも Wikipedia でもそうなっている。Wikipedia では、「チムール」の項目でこそ「モンゴル=チュルク系」とはなっているが、その項目で書かれている「出自はバルラス部」は別にチングス家の祖先でもあると書かれている。ただし、今回のツアーでそのことを現地ガイドに聞くと、顔を真っ赤にして、

「それはソ連時代に作られた嘘だ」と言われた。Wikipedia の「チムール」の項目ではまったく逆に、チムールをウズベク人とする物語こそ旧ソ連が作った神話だと書かれているのに、である。なお、こうしたこともあり、チムールの肖像画の顔だちは論争的である。以下に示す左の肖像画は Wikipedia のもの、右の肖像画は現地サマルカンドのチムール廟に掲げられたものである。左はいかにもモンゴル人、しかし、右はチュルク系の顔だちのとなっている。歴史の「歪曲?」がウズベクのナショナリズムのためになされている。



ただ、それでも、ウズベク人がなぜここまでモンゴルが嫌いかを理解することもできる。サマルカンドにはモンゴル帝国が破壊しつくした「アフラシャブの丘」が残され、上述のイスラム帝国以降、この地を支配した権力は以下の順となっている。

イスラム帝国(アラブ)
セルジューク朝(チュルク)
カラキタイ(西遼、モンゴル)
ホラズム(チュルク)
モンゴル帝国=チャガタイハン国(モンゴル)
チムール帝国(モンゴル)
シャイバニ朝(チュルク)

イスラム帝国がアラブ国家だったことを除くと、この地が多民族モンゴル民

族との永い戦い、王朝交代の歴史を持っていることが分かる。ちなみに、最後のチムール帝国は、上述のシャイバニ朝に滅ぼされた後、南下してインドにムガル帝国を築いているが、この「ムガル」の発音は「モンゴル」から来ている。この意味でも、チムール帝国の実際は「モンゴル系」であった。(ムガル帝国でもバルラス部はチンギス家と並ぶ高貴な家系であるという主張は繰り返され、王家の正統性が主張されている。)

外貨不足とそれへの対応

以上はいわば「民族意識」に関する話であるが、本来の経済の話に戻ると、久しぶりに訪れた「外貨不足国家」の悩みを実感することができたのが良かった。ウズベキスタンはその人口に比べればカザフやロシアのような地下資源には恵まれず、外貨不足に悩んでいる。そして、そのため、出入国のために書かねばならない項目は本当に細かなものであった。各国通貨別に、たとえば1ドル単位まで所持金を明示させられ、出国時にそれが増えていないかチェックされる。この規制のきつさで外貨流出を防ごうとなっているのである。ウズベク政府は外貨不足を解消するため、輸出品を作る企業の直接投資を期待しているが、そこで儲けたお金を自国に取り戻せないのならどうして企業が投資してくれるのか。そのような意味で、日本企業の進出もその人口規模に比べれば殆どない。企業誘致は進んでいない。

ただ、ウズベク政府としては、それで放置していくわけには行かないので、特別な企業には特別な対応をするということで、この限界の突破を図っている。具体的には、GMで、国内にはシボレー・ブランドのGM車で溢れていた。全車種の7,8割はシボレーで占められている感じで、これにはこの企業だけに外貨持ち出しを許したり、国がシボレーを買い上げたりと徹底した優遇ぶりである。

もちろん、こうした特別扱いには日本企業など他社は批判的であるが、かと言って全企業の外貨持ち出しを許容すると外貨不足にすぐになってしまう。とすると、外貨管理はやめられない、また外貨獲得のためのGM優遇もやめられない、となる。外貨不足国家の悩みとはこういう形をとるのである。

社会の末端における腐敗

最後に、この短い期間に遭遇した3つの小さな事件について報告したい。事の軽重はあるが、どれも窃盗ないし詐欺にあたる「犯罪」である。

その最初のものは、出国時にあるツアー・メンバーが空港のセキュリティー・

チェックでシガレットのチェックを受けているうちに、いつの間にか2本抜かれていたというものである。これは実害の殆どない可愛い「犯罪」でしかないが、こんなことをいつもやっているのかと思うとちょっとあきれてしまう。

もうひとつは、あるメンバーがサマルカンドのレジスタン広場の塔に登って10ドルを警察に盗られた、という話である。これは、レジスタン広場の「入場料」の取られない早朝の景色が特別に良いと観光客に警察が語り掛け、その時刻に客を来させ、本来無料の塔に登った客から10ドルを盗ったというものであるが、これが詐欺だったことは、昨日は5ドルと言っていたのが当日は10ドルとなり、さらには公衆の目のないところにわざわざ来させてから10ドルを受け取ったからである。ウズベクの警察は皆詐欺だと以前から言われていたそうであるが、何と本当だったということになる。

最後のひとつはまた可愛い「詐欺」であるが、私がチムール廟前の「ルハバット廟」という小さな廟に4人で出かけた時のことである。この廟は十数畳程度の小さな空間1つしかなく、それをチラリと覗いた瞬間にそこにいたおばさんに、何と4人分の料金を取られたというものである。この徴収には確かに領収証も発行されたが、もっと大きな観光地と同じ料金というのはやはりありえない(小さな空間を覗くだけの場所です!!)。ので、これもやはり「詐欺」としか考えられない。

実を言うと、混雑する出国時のセキュリティー・チェックであるメンバーがリュックサックを「紛失する」という事件もあった。仕方なくリュックなしで飛行機に搭乗後、航空会社経由で確かめて最終的には「発見」されたが、これはセキュリティー・チェックのミスなのか、それとも悪意あるものなのか分からない。「紛失」されたご本人は悪意のないものとされているが、私はまだ疑っている。

小さな「事件」は他にもまだあった可能性がある。そのほとんどは「些細」なものではあるが、皆が皆こうなのだろうかと思ってしまう。十数年前、私は中国の新疆自治区からカザフスタンに抜ける際、検問所でウイグル人と雑談したことがあるが、その時、そのウイグル人は「カザフは上から下まで腐敗だらけ」と言っていた。もう少し正確に表現すると「中国は上だけ、カザフは上から下まで腐敗」との表現である。なので、当時のカザフは現在のウズベクなのだろうか。政府部門が大きく、かつ貧しい経済状況にある国では避けられない現象なのであろうか(十数年前のカザフはそうであった)。ちょっと考えてみたい。

中国人留学生、日本の「就職の神器」に注目

一般社団法人大阪能率協会常任理事、順利包装集团董事长（在上海）
福喜多技術士事務所所長、東アジアセンター外部研究員
福喜多俊夫

中国網（9月16日）は「日本の専門学校は、手頃な授業料で短期間内に成果をあげられる、『就職の神器』とされている。そのため近年、日本の専門学校は中国人留学生から注目を集めている。」と紹介した。中国網の記事を要約して紹介しよう。

日本の2015年版「専修学校教育白書」によると、日本の専門学校は計3201校で、大学の4倍以上となっている。在学学生は約66万人。生徒は卒業後に専門士の資格を取得できる。日本社会はこの「資格」を非常に重視する。専門的な職に就く場合、試験により資格を取得する必要がある場合が多い。専門士は確かな資格だ。

日本の専門学校の95.6%は私立で、時代の需要に合わせたフレキシブルな職業教育を提供している。例えば近年、ペット飼育やマニキュアが流行しているが、その専門学校と学科が多く新設されている。専門学校の就職率は大学に劣らず、多くの人気専門学校はウェブ上で誇らしげに「就職率100%」と宣伝している。看護学校、リハビリ・福祉学校などの人気が高く、看護師などの医療スタッフを育成している。日本はすでに高齢化社会に入っており、このような専門家の需要が大きい。専門学校で学習後、柔道整復士の資格を取得すれば、卒業後に整骨院を開くことができる。

他にも公務員専門学校の就職率が高い。日本で公務員になるためには、厳しい試験に合格しなければならない。公務員専門学校はその便利なルートで、公務員試験に関する内容を系統的に学習できる。

専門学校は「メイド・イン・ジャパン」を支えている。自動車整備、土木建築、情報処理、無線通信、農業・園芸などの専門学校は、日本の産業の前線に多くの技術者を送り出している。日本文化の特徴あふれるアニメ、ファッション

ンなどの専門学校も、多くの留学生から注目されている。東京都渋谷区の文化服装学院は4年制の専門学校で、有名大学と同じ程度の難関校だ。この専門学校からは山本耀司、高田賢三など、ファッション界の巨匠クラスの有名人が出ている。学生は在学中に、さまざまなファッションデザインコンテストに参加する機会がある。

日本学生支援機構の統計データによると、2015年5月1日時点の日本の留学生数は20万8379人で、前年比で13.2%増加した。うち専門学校の留学生数は大学を上回り、前年比32.3%増の3万8654人に達した。

高学歴を手にしなければ、わざわざ留学のため出費した意味はない。これは過去の観念だが、今や変化が生じており、一芸を身に付けるのが最も割に合うとされている。ステータスのため大学に入るならば、何も学べず、卒業後に就職できない可能性がある。日本の専門学校は、自分が学びたいものを学び、成果を手にすることが最も重要だと教えてくれる。

中国人留学生の留学観も時代とともに変化しているようです。そして日本の専門学校についてよく調べている。日本で就職を希望する中国人留学生にとって、専門学校は彼らの合理精神にぴったりのようだ。ベネッセ教育総合研究所の調査では専門学校の卒業生の76.2%が「充実して学ぶことが出来た」と感じている。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億 ^{ドル})	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6	19.4	2590	7.8	7.2	▲8.6	5.3	13.6	14.1
2014年	7.4	8.3	12.0	2.0	15.2	3824	6.1	0.4	4.41	14.2	12.2	13.6
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年	6.9	5.9	10.7	1.4	9.7	6024	-9.8	-14.4	11.0	0.8	11.9	15.0
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4
5月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7
8月		6.1	10.8	2.0	9.1	602	-5.6	-13.9	23.9	20.9	13.3	15.7
9月	6.9	5.7	10.9	1.6	6.8	603	-3.8	-20.5	5.2	6.1	13.1	15.8
10月		5.6	11.0	1.3	9.3	616	-7.0	-19.0	2.5	2.9	13.5	15.6
11月		6.2	11.2	1.5	10.8	541	-7.2	-9.2	27.7	0.0	13.7	15.3
12月	6.8	5.9	11.1	1.6	6.8	594	-1.7	-7.6	17.2	-45.1	13.3	15.0
2016年												
1月			10.3	1.8	18.0	633	-11.5	-18.8	14.1	-2.1	14.0	15.2
2月			10.2	2.3		326	-25.4	-13.8	-11.3	-1.3	13.3	14.7
3月	6.7	6.8	10.5	2.3	11.2	299	11.2	-7.4	26.1	4.0	13.4	14.7
4月		6.0	10.1	2.3	10.1	456	-2.0	-10.5	21.4	2.9	12.8	14.4
5月		6.0	10.0	2.0	7.4	500	-4.7	-0.1	43.6	-4.8	11.8	14.4
6月	6.7	6.2	10.6	1.9	7.3	479	-6.1	-9.0	8.5	4.4	11.8	14.3
7月		6.0	10.2	1.8	3.9	502	-6.4	-12.9	-3.8	-6.2	10.2	12.9
8月		6.3	10.6	1.3	8.2	520	-3.2	1.4	13.2	0.5	11.4	13.0

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、()内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。